



かけはし

気温上昇。熱中症に注意



朝は涼しいですが、日中はかなり気温が上がる日が多くなってきました。今年も熱中症対策が必要な季節になりました。ニュースでも、23日に運動会の練習中に、熱中症の症状とみられる児童が

26人搬送されたという報道がありました。

熱中症というと、真夏のイメージが強いですが、体がまだ暑さに慣れていない今の時期から注意が必要だと言われていています。今週末から気温が上がることが予想されています。

こまめな水分補給や炎天下の活動を避けるなどことに幼稚園でも配慮していきたいと思っています。ご家庭でも、土日の日中の活動には特に注意をお願いします。

絵本の読み聞かせ

6年前から、時光さんが読書ボランティアとして、毎月大井幼稚園に来てくださっています。

5月22日（水）。今年度2回目の読み聞かせの日でした。

1学期はまだ、赤組と黄組の子どもたちだけの参加ですが、子どもたちは読み聞かせの時間をとても楽しみにしています。

読み聞かせが始まると、子どもたちの目は本の挿絵に釘付けです。お話の世界にすっかり入り込んでいる様子がうかがわれます。

各担任も読み聞かせをする場面はたくさんあるのですが、違う人に読んでもらうことで、いつもとは違う環境でより本への興味関心が深まるとともに、人との関わりも広げることができると思います。



「読み聞かせ」のすすめ

「絵本の読み聞かせ」と聞いて、どんなイメージをもたれるでしょうか。「こどもの成長や教育に良い」「幼い子が字を読めるようになるまでの本」・・・、いろいろなイメージをもっておられると思います。

小学校に入学する位までは、特に、自分で意識しない潜在意識への影響が強いと言われていいます。つまり、個人の性格や振る舞いの基礎が今の時期に形成されるということです。この時期に、多くの「良いもの」で満たされていることが望ましいということです。このために、「心を健やかに育てる」絵本に接することは、とても大切なことだと思います。人とかかわることの喜びを知る絵本、人を傷つけた結果が学べる絵本、何でもおいしく食べることの大切さを学ぶ絵本、〇〇の楽しさを知る絵本・・・。これらのたくさんの「良いもの」に触れることを大切にしたいものです。

「絵本の読み聞かせを多く経験した子どもは、大きくなってテストの物語文で、まるで絵本を読んでいるかのように情景が頭に浮かび、簡単に問題を解くことができる。」という記事を読んだことがあります。

「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、絵と言葉が一致したときに、強くイメージされるものです。絵本の読み聞かせによって、この訓練がしっかりできて、難しい文章でも、絵本のページをめくって挿絵を見ているかのようにイメージできる。そして、登場人物の気持ちもすぐに読みとれるということだと思います。

必ずしも学力だけが子どもの人生の幸せを左右するわけではありませんが、絵本の読み聞かせが、子どもの未来をより明るいものにするのは間違いのないと思います。

でも、学力向上のために、人格形成のために、「読み聞かせをしなければならない」という気持ちでやってしまうと、読み手が疲れてしまうし、続けることはできません。

一番大切なのは、無理矢理読み聞かせをするのではなく、お互いに楽しいから読み聞かせをすることだと思います。一緒に読み聞かせで楽しい時間を過ごす。その結果、子どものよりよい人格形成、学力向上につながる。こうなるといいですね。

